



和の文化から建具の未来を考察

業界クローズアップ

全国建具・東京大会

和文化を語るシンポジウムを開催

和の文化は自由性にある

全国建具組合連合会（小松俊悦会長）は7月10日、東京都江東区のFTホール・HALL300で「第60回全国建具・東京大会」の講演会及びシンポジウムを開催した。

講演会は(有)TERA歴史景観研究室代表の最勝寺靖彦氏が「おり紙から見えてくる建具の未来」、中小企業診断士の佐藤卓氏が「和を囲む業界と連携して建具の需要開拓」と題し、建具業界に関連するテーマから文化や歴史、産業としての方向性を語った。

最勝寺氏は折りたたむ文化が日本の文化であるとし、折りたたむという発想に基づく日本の家具や建具が西洋文明のドアや収納との考え方の違いに現れていると指摘。「和服と洋服、風呂敷とバッグ、和家具とインテリアの洋家具の違いは折りたためるか否かにある。和箆筒は洋箆筒よりも大きさは小さいが、着る物の収納量は大きい。これは和服がたためるからであり、このフレキシビリティ（自由性）が日本文化の特徴となっている」と、折りたたむこと